

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域密着型サービスの意義をスタッフ全員で確認し、地域との関係継続に取り組み、入居者様に地域の中での安心した暮らしを提供できるよう、法人の理念にのっとりグループホーム独自の理念をつくりあげている。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員の採用時には必ず理念を伝え、理解してもらうようにしている。また、名札の裏に理念が記載しており、スタッフ全員がいつも見て確認できるようにしており、理念の実践につながるよう取り組んでいる。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	事業所の理念をお伝えするため、地域・ご家族への月1回のお便りを活用している。運営推進会議でも、入居者様が地域の中で暮らすことの大切さについて、折に触れてお伝えしている。また、ユニットごとに見やすい場所への掲示を行い、入居者様・ご家族にいつでも見ていただけるようにしている。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩に出かけた際はご近所の方々とあいさつを交わしている。回覧板や、近隣の農家から作物を安く分けて頂くなどのお付き合いをしている。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入し、地域の運動会やごみ拾い・防災訓練などの行事に参加している。また、町内会・運営推進会議で情報を発信しており、グループホームの行事(花火大会)などにも近隣・町内の方に参加していただいた。近隣の方のボランティア活動を受け入れている。		
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議にて、認知症の理解や感染症・食中毒の予防と健康管理について勉強会を行っている。また人材育成の貢献として、実習生を受け入れ、積極的に指導を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	サービス評価の意義や目的をスタッフ全員に伝え、全員で自己評価に取り組むようにしている。		
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2か月に1度開催し、入居者様の活動状況やスタッフの取り組みについて、スライドを活用し報告している。また、毎回テーマを決めて認知症の理解や感染症・食中毒の予防と健康管理について勉強会を行い、地域との連携に役立っている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	グループホームの運営について、必要に応じて市や区の担当者から助言をもらっている。また、キャラバンメイトとして認知症講座の開催が出来るよう、市や区の協力を受けている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度・権利擁護の研修に参加し、対応が必要と思われる入居者様がいる場合には、随時職員に説明・アドバイスをしながら、支援している。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	勉強会を行い、高齢者虐待防止法に関して、スタッフ全員が理解を深められるよう取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、事業所のケアに関する考え方や取り組みについて、一つ一つ説明し、不安や疑問点を確認した上で理解・納得していただいている。また、重要事項の内容に変更が生じた場合においても説明会を行い、詳しく説明した上で、文書による同意をいただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様の言葉や態度からその思いを察する努力をし、話がスムーズにできるような対応や接遇に心がけている。不満があるような場合は管理者に報告し、ご家族と相談しながら、出された意見等は日々のケアに生かしている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月のお便り・ときには電話で入居者様の近況やお小遣いの状況を報告している。来所時にはスタッフからご家族に声をかけ、ご家族の状況も伺うようにしている。お小遣いの使途は出納帳に記載し、領収書をまとめてご家族に確認して頂き、使途不明がないようにしている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族から何でも言っていただけるような雰囲気作りに留意している。アンケートも行い、いろいろな機会でお出された意見はそのつどスタッフで話し合い、運営に反映させている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のスタッフ会議やフロア会議、管理者との個別面談等で、意見・提案を聞いている。管理者・スタッフ同士は日ごろからコミュニケーションを図るよう心掛け、質の向上に向けて取り組んでいる。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者様やご家族の状態の変化に応じた対応ができるよう、夜間も柔軟な対応をしている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	基本的には各ユニットのスタッフを固定化し顔なじみのスタッフがケアに当たるようにしている。職員の退職等があってもなじみの関係が途切れないように、残ったスタッフでフォローしあい、入居者のダメージがないよう配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月勉強会を行い、スタッフがテーマを持って研修発表を行っている。外部研修への参加や、資格取得によるスキルアップの機会を確保し、スタッフが段階的に力をつけられるように年間スケジュールを立てている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市内の連絡会で交流を持っている。また、他施設のケアマネージャーとも交流を持ち、ネットワークづくりを行って、質の向上に向けた取り組みをしている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	管理者は、スタッフからの相談を聞き入れ、日常や面談時に職員のストレスや悩みを把握するよう努めている。スタッフも自らストレスマネジメントについて学び、ストレスを緩和していく機会を広げている。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	スタッフが楽しく働きやすいと思える環境作りに努め、向上心を持って働けるよう職能評価を行っている。また、法人内外の研修等でスタッフの資格取得を支援している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	サービス利用の相談があった時は、必ずご本人に会って心身の状態やご本人の思いに向き合っている。また、ホーム内を見学して頂き、スタッフと話をすることで、ご本人に受け入れられるよう努力している。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居申し込みの段階で、これまでのご家族の苦労や、今までのサービス利用状況などの経緯についてゆっくり話をお聞きしている。ご家族が困っていることや求めているものを理解し、信頼関係を築くことにつなげている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人やご家族の思い・状況などを確認し、他のサービスが必要な場合は、病院・ケアプランセンター・地域包括支援センターなどで相談を受けられる体制づくりをしている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	スタッフはご本人・ご家族と入居の前でコミュニケーションをとりながら、信頼関係につなげられるように心がけている。理念に基づきなじみの生活が入居後も続けられるよう、自宅で使っていた家具や調度品を持ち込んでいただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	スタッフは、入居者様が人生の先輩であるという考えを共有し、昔のことや家事などを教えて頂く場面を多く持つように心がけている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	スタッフは、ご家族と一緒に入居者様を支援する立場であることをご家族に伝え、入居者様の様子や気付きの情報共有に努めている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご本人の日ごろの状況をこまめに報告し、ご家族の思いや状況を見極めながら、外出・外泊でご本人とご家族が共に過ごす時間を持つたり、行事にご家族を誘ったりしながら、より良い関係の継続に努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者様が住んでいた地域の老人会・町内会の方の面会時は、自由に出入りして頂き、良い関係が保てるよう配慮している。ご家族と外出され、ご自宅によって来られる方や、以前から通われていた床屋へ行かれる方もいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	スタッフが入居者様同士の関係に常に配慮し、それぞれ孤立せずに関わりを持ち、お互いに害する事がないように、注意深く調整役として支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	体調悪化による入院時など、サービスの利用が終了された方にも、ご家族の相談を受け、いつでもかかわりが持てる体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常のコミュニケーションを通じて、入居者様やご家族の希望や意向が聞き出せるよう、話しやすい雰囲気を作り、画一的ではない個別対応をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者様が自分らしく暮らしていくために、ご本人・ご家族からの情報をもとに、基本情報シートを作成し、生活歴の把握に努めて支援している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	スタッフ全員が入居者様個々の生活リズムを理解し、毎日の状態を記録・確認して、個々の有する力に着目したケアプランを立て、実践している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	ご本人の思い・ご家族の希望・意見を反映させたケアプランを作成し、実施に当たってはご家族に十分説明したうえで、同意を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	日々のケアはケアプランに基づいて行われており、支援経過についての介護記録や、スタッフの意見、ご本人・ご家族の意向を汲み入れながら、プランの見直しを行っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録は医療支援・ケアの記録・生活記録が分かりやすいように区分している。個々のケアプランを、介護記録に提示し確認しながら、入居者様の日々の様子やケアプランの実践を記録している。ケアプランはモニタリングを行い、スタッフの情報共有・ケアプランの見直しに役立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療連携体制により、体調悪化の時には、入居者様やご家族の希望に応じ、通院や送迎などの支援に柔軟に対応している。ご家族へも医療面のバックアップ体制が充実していることでの安心を提供出来ている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	定期的にボランティア活動を行事に取り入れ、季節ごとに入居者様・ご家族に楽しんでいただいている。緊急時の対応に、警察・消防署などの協力を得ている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他施設のケアマネジャーとの連絡会を開いている。入居者様に、訪問美容や地域の方によるボランティアを活用するための支援を行っている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加し、周辺情報や支援に関する情報交換を行い、協力関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医から定期的な訪問診療を受けており、スタッフは日常の健康管理や医療活用の支援を行っている。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>認知症状の悪化により、介護者の対応が難しくなったケースでは、ご家族の希望を聞いて、認知症専門医等を受診支援できるよう、ケアマネージャー及び看護師が相談の窓口となっている。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>常勤の看護師を配置しており、入居者様の健康状態の把握や状態の変化に応じた支援を、常に行えるようにしている。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入居者様が入院された時は、ご本人への支援方法に関する必要な情報を医療機関へ提供している。また、ご本人を見舞いご家族とも情報交換しながら、回復状況を医師に確認して、早期に退院できるようアプローチしている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>入居者様・ご家族の思いを重視し、スタッフ・医師等と話し合い、方針を決めている。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>看取りについてのマニュアルを作成している。入居者様・ご家族の意向を重視して、かかりつけ医とチームとして支援に取り組む事を確認している。急変時の対応や担当医への連絡・受診体制について、医療機関と密に連携を図り対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ご本人・ご家族の希望により、ご家族の介護による在宅生活を再開された場合、住み替えによるダメージを防ぐためにこれまでの生活への支援内容や必要な注意点について情報提供し、ご家族との連携を図っている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>高齢者の「尊厳」の徹底と繰り返して接遇教育を行い、スタッフの意識向上を図っている。また、入居者様の誇りやプライバシーに配慮した対応を常に心がけている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入居者様ひとりひとりの意向に沿うように配慮し、無理強いせずにご本人の意思を尊重しながら支援している。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ひとりひとりの体調ペースに配慮しながら支援している。入居者様の希望が出来るだけかなえられるように、スタッフ同士が連携をとって業務に当たっている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>その人らしい身だしなみが出来るように、気をつけて支援している。ご本人・ご家族の希望で、なじみの理美容店に外出される方もいる。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>入居者様の好みに配慮したメニュー作りや、入居者様とスタッフが同じテーブルで会話しながら食事をするなど、楽しい雰囲気作りを心がけている。また、それぞれの入居者様に合った方法で、準備や片付けを一緒に行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご家族の協力を得て、入居者様の好みに合った物を持ってきていただき提供している。全館禁煙になっているため、たばこは控えて頂いている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個別の排泄チェック表を使用し、個々の排泄状況に合った方法で時間毎の誘導や声かけ・介助を行っている。リハビリパンツや各種おむつも、状態の変化に応じて使い分けしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者様の体調や都合を確認しながら、無理強いしないよう臨機応変に対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	なるべく日中の活動をすすめ、夕方から就寝に向けて生活リズムが安定するように工夫して支援している。居室には入居者様が使用していた家具やなじみの品物をそろえ、安心できる環境づくりに努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の生活歴を把握し、それぞれの入居者様の得意なこと・経験や知恵などをそれぞれのプランに取り入れ、ご本人の楽しみごと・気晴らしの支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理できる入居者様には自分で管理していただいている。事業所が管理している方も、少額を手元を持っていただき、社会性の維持につなげられるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日には、積極的にスタッフが同行して、近隣への散歩に出るようにしている。また、ドライブ・軽食などの外出支援を計画・実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	花見・紅葉・よさこい等の見学を計画し、レストランでの外食にはご家族にも声をかけて、大型バスを使って外出を支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望があった時に支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	入居者様のなじみの方が訪問された時は、居室だけでなく居間・食堂・ホールを自由に使っていただき、気軽に過ごせるよう支援している。また、ご家族と一緒に食事会を行い、各入居者様が和やかな雰囲気ですごせるよう工夫した。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する外部研修に参加し、スタッフへ伝達して意識を共有している。スタッフ同士が話し合い、身体拘束をしないケアへの意識を持つよう取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	フロア入口のブザーが作動する前に、入居者様が外出しそうな様子を察知して、さりげなく声をかけ一緒に歩くなど、安全面に配慮している。帰宅願望の強い方がいるため、玄関のテンキーを一時的に使用している。		
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	スタッフは、記録などの事務作業を、入居者様と同じ空間で行いながら、さりげなく見守り、全員の状況を把握するよう努めている。夜間は2時間毎・必要ならその都度巡回して、入居者様の様子を確認し、居室の様子に気を配りながら、入居者様が起きた時の安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ひとりひとりの状況に合わせ、その入居者様にとっての危険要因を個別に検討している。本人管理としているものがあれば周知し、スタッフ全員で危険防止に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	「気づきの報告書」への記入により、事故を未然に防ぐ取り組みを行い、多かった誤投薬を減らすための工夫を続け、効果が出ている。セーフティマネジメント係が中心になり、ヒヤリハットの報告内容から、誰がどんな状況で危険であったかを、スタッフ全員が情報としてとらえ、事故防止に取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の救命救急講習会をグループホームで開き、スタッフ全員が初期対応の実技講習を受けて、急変時や事故発生時に備えている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の避難訓練をスタッフが先行し、うち1回は消防署の立ち合いで火災時の初期消火や通報・避難誘導の訓練を行っている。作成したマニュアルが現状に即しているかなど話し合い、必要あれば変更している。地域の避難訓練にも参加し、運営推進会議で現状を報告しつつ、緊急時の地域の協力を呼び掛けている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	転倒・状態急変のリスクについては、日頃からご家族に説明を続けている。日常生活を楽しんでいただく中で、起こりうるリスクや対応策については、スタッフで話し合い、ご家族に説明・相談して協力を得よう努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタル測定を行い、普段の体調を確認・記録している。いつもと違う様子が見られた時は、すぐにバイタルチェック・記録を行い看護師に報告し、必要あれば医療受診につなげている。顔色や体熱感・表情の些細な変化に注意して、早期発見に取り組んでいる。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬情報を介護記録に保管して、入居者様の服薬内容・副作用をスタッフ一人一人がいつも確認し、医師の指示通りの服薬が出来るよう支援している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	スタッフは各入居者様の排便状況を確認し、排便を促すための体操や散歩など、身体を動かす働きかけを積極的に行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、入居者様に声をかけ、介助・見守りで口腔ケアを行っている。夕食後は義歯を預かり、週2日ボリデント消毒して清潔を保てるようにしている。残歯がある方・舌の汚れがある方には、歯間ブラシ・舌ブラシを使っていただいている。訪問歯科の診察を定期的に受け、口腔状態を良好に保つための支援をしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分摂取量を観察し、記録している。体重を月1～2回測定し、入居者様ひとりひとりに適した食事量を提供できるよう努めている。咀嚼や嚥下の状況に応じて、食べやすい調理・食事形態を工夫している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	フローア・居室の温度(22～23度)・湿度(40～50%)注意して管理している。スタッフは手洗い・うがいを徹底し、外部からの訪問者・帰所された入居者様にも手洗いを励行していただいている。毎年インフルエンザの流行前に、スタッフだけでなく、入居者様・ご家族の同意をいただいて、予防接種を受けている。感染マニュアルがあり、母体病院の感染予防対策委員会へ参加し、情報収集・学習を続けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板や布巾は毎日消毒し、調理器具等の衛生管理に努めている。また、食材は在庫管理をして、新鮮で安全な食材の提供に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	事業所名が分かりやすい表示になっており、入口には手作りのポストを設置している。玄関前に、入居者様が植えた花や野菜のプランターを置き、ベンチに座って眺め楽しむ事が出来るよう工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	食堂と居間を別にして、入居者様がその時その時の気持ちで、好きな場所を選んで過ごすための工夫をしている。共用空間には書道や塗り絵など入居者様の作品や民芸品を展示し、季節ごとのディスプレイをしてゆったりと過ごして頂けるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂・居間・ホールにソファを置き、入居者が自由に座ってくつろいで過ごせるよう工夫している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者が以前から使ってなじみがある、家具や調度品・ご家族の写真を居室に配置して頂き、居心地が良くなるように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居室の換気を日に2回以上行い、暖房器具は入居者の体質に合わせて微調整できるようにしている。居室への太陽の当たり方にも、入居者が不快を感じないように注意を払っている。また、排泄物の悪臭がこもらないように、脱臭剤・消臭剤で工夫している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	フロアは段差がなく、廊下・トイレの壁には使いやすい高さに手すりが設置されている。3か所のトイレは手すりの高さが違っており、入居者の状態にあった場所で使用していただいている。夜間のトイレ使用者が分かりやすいように、トイレの入り口をダウンライトで照らし、安全に配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室の扉に表札を貼り、他入居者の部屋と間違わないよう配慮している。お風呂場・トイレのマークが見えやすく、お風呂場には「ゆ」の暖簾・トイレには「使用中」の札をかけて、より分かりやすくする工夫をしている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	入居者が植えたプランターで、花や野菜への水やりや収穫を楽しんでいただいている。散歩の際に一休みできるようなベンチが玄関前に置いてあり、利用していただいている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

入居者様ひとりひとりに合ったケアプランを立てて実施している。それぞれのプランには個性があり、入居者様の個性が反映されている。日々の活動に入居者様が進んで参加できるような声のかけ方・働きかけ方を工夫している。